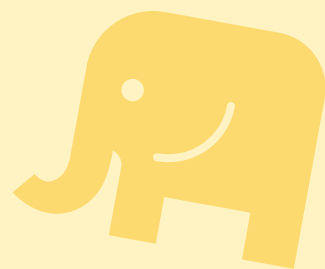


熊本大学小児科
専門研修プログラム《別冊》

小児科医のあれこれ



「せんせい、ありがとう」
これだからやめられない…
小児科医のホンネ！





CONTENTS

03 小児科医に密着！

倉岡将平

06 小児科医に聞く！

榎木朋子

吉松秀隆

森 博子

興梶健作

10 熊本大学小児科よりメッセージ

●「熊本地震」を経験して

●熊本大学小児科専門研修プログラムの特徴

中村公俊

11 研修先となる連携施設・関連施設

14 熊本大学小児科専門研修プログラム



倉岡将平

熊本大学医学部附属病院小児科 診療助手



榎木朋子

熊本大学医学部附属病院小児科 医員



吉松秀隆

熊本大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター 医員



森 博子

熊本大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター 特任助教



興梶健作

熊本大学大学院生命科学研究部
小児科学分野 大学院生



中村公俊

熊本大学大学院生命科学研究部
小児科学分野 准教授

Q. 倉岡先生、小児科医を目指したわけは？



子どもが好きだったからです。
実は高校生の頃「小児科医」か「小
学校の先生」かで迷ったんです。

倉岡将平

Shohei Kuraoka



Profile

くらかしろうへい／熊本県出身。H20年熊本
大学医学部卒業。H22年に熊本大学医学部小児
科に入局し、熊本市市民病院NICU、宮崎県立延岡
病院を経てH24年より熊本大学医学部附属病院
小児科にて勤務。H25年の小児科専門医取得を
契機に、小児腎臓を専門として、入院・外来診療
を継続している。

小児科医に密着！

健康体だったからこそ、未知の世界に興味を湧いた

もともと子どもが好きだったので、将来的には“子どもに関わる仕事”に就きたいと思っていました。高校生の頃は世の中を知らなかったので、子どもに関わる仕事と言えば“小学校の先生か小児科医”しか思いつかなかったんですね(笑)。このふたつの職業で結構悩んだのですが、最終的には好奇心が勝って小児科医の道を選びました。実は私、健康体だったのでほとんど病気をしたことがない

んです。小児科にお世話になったこともありませんでした。そのため「医者、小児科医、医療というのはどのような職業・職場なのだろう」と漠然とした好奇心が強まったんです。また、人を助ける仕事ということにも興味があり、医師を職業として強く意識するようになりました。

医学部で学びながら各科を回り、すべての科に興味を持ったのですが、やはり最終的には「子どもが好き」と

いう気持ちが後押しして、小児科に入局を決めました。

小児科医になりたての頃は、手技の難しさや病気の伝え方など、基本的なことでもよく悩んでいました。小児科医になって6年目ですが、今はようやく「この子はどういう大人になるのか、その時どうすればいいのか」など少し先のことを考えながら治療に向き合えるようになりましたね。それでもまだまだですけど(笑)。

7:00 起床
体力勝負なので睡眠と朝食は何より大切。

8:00 出勤

8:30 病院到着
「今日も頑張るぞ!」

9:00 外来にて採血

10:00 病棟にて回診

12:00 昼食

外来診察にて採血 大人ならば手間取らない採血も、子どもだと数人がかりに。「血管が細い子どもたちの採血は、血管確保自体に時間がかかります。また興奮して嫌がる子どもは、気持ちが落ち着くまで抱っこしたり」と倉岡先生。

病棟回診 「外来診察の合間には、出来る限り病棟をまわり、患者さんや保護者の方とコミュニケーションをとるようにしています」。子どもたちのちょっとした変化、不調を見逃さないようにすることも小児科医の大事な任務。

毎日のランチは仕事の合間に15分程度。気がついたら夕方...ということも多い。院内にあるセブンイレブンやタリーズカフェは職員にとっても休息の場。

子どもの本当の不調を見抜く洞察力が大事。

診察にあたっては、当然ながら“洞察力”がとても重要となります。子どもは大人と違い、言葉で上手に不調を訴えることができません。しかし、言葉を話すことができない赤ちゃんでも片方の耳を傾けている時は「中耳炎」の疑いがあるし、また子どもが「おなか痛い」と訴えたとしても、本当はおなかの不調が原因ではない時だってあります。子どもたちの本当の不調がどこにあるのかを見抜く力は、小児科医の欠かせない

要素です。また保護者の方とのコミュニケーションも大事。以前はお母さんだけがいらっしゃることが多かったのですが、最近は初診からお父さんも来られたり、また祖父母も同席されることがあります。診療の結果を伝える際に、誰がどの位置に座られているのかも重要だったりします。ご家族のパワーバランスを椅子の位置で推測できるからです。治療の選択肢がいくつかある場合、重要な決定をどなたがされるのかなど

を観察する必要があります。出来るだけご両親の希望に添いつつ、最善の治療を双方で話し合いながら決定していくことを心がけています。

大変なことも多いですが、子どもたちが回復していく姿を見ると一気に疲れが吹き飛びます。入院している子どもたちから手づくりのプレゼントをされることもあり、彼らからは毎日元気をもらっています。なにより、私自身が子どもたちの笑顔に救われています。

14:00 病棟の診療科長回診
科長の病棟回診 小児科医全員で情報を共有するために、毎週月曜日は、診療科長とともに病棟の回診が行われる。担当医から口頭説明がされたのち、病室にて患者さんたちの様子を見ながら診察。

16:00 外来にて診察
カルテチェック 外来や回診の合間に、患者さんたちのカルテチェックを行う。他のドクターや看護師たちと連携して、子どもたちの体調の変化を確認。

17:30 外来のカルテ整理

19:30 帰宅

21:00 リラックスタイム

22:00 就寝

カンファレンス 他の医師と患者さんについての情報共有は不可欠。

帰宅後は家族の時間
「患者さんの具合が悪い時などは、なかなか帰れない時もあります。当然医師として気持ちが沈むのですが、落ち込んだ気持ちを家庭に持ち帰らないように、帰り道に徐々に気分を切り替えるようにしています」。家族との貴重な時間は、思い切り「夫・お父さん」として過ごすようにしていると倉岡先生。

外来診察 「子どもたちの気持ちを優先して、彼らの気持ちが少しでも和むように、なにげない会話をしながら診察をしています。例えば『今日ってどんな日だったかな?』などの会話をしながら。すると子どもたちは一日の出来事を一生懸命話しながら、診察を受けてくれるんです」。

「休みの日は、趣味のハンドボールでストレス発散! 体を動かすことで気分が変わりますね。また『とうちゃん、今日はカレーを作るう』と子どもから誘われ、一緒に料理を作ることも。実は私、猫舌で辛口が苦手なので、子どもと味覚が同じ! 普通の野菜ごころる甘口カレーを作って食べていると、幸せな気分になります(笑)」



榎木 朋子

[専門分野]
小児神経



子どもたちの気持ちを理解するために、日々悩みながら経験を積んでいます。

医局を選択する際に各科を廻るのですが、なかでも小児科の先生方の姿勢と熱意に惹かれ、小児科への入局を決めました。大変やりがいのある仕事ではありますが、一方で当然ながらお子さんを相手にすることへの苦労もあります。大人ならばスムーズにいく検査、注射や点滴なども、子どもにとってはビッグイベント。血管確保も大人に比べて難しく、例えば「左手がダメなら、次は右手で」となった場合、大人ならばすぐに対応してくれ

ますが、お子さんの場合は、抱いたりなだめたりなどして気持ちが落ち着くまで待ってあげなくてはなりません。言葉や気持ちを上手に表現できない小さな子どもたちの気持ちを、いかに察するか、またこちらの行為についてもちゃんと理解してもらえるか、毎回悩みながら経験を重ねているところです。小児科医として心がけているのは、出来るだけゆっくりと話すということ。とくに3歳以上のお子さんには時間をかけて検査や処置の説明をするなど

「対等」な気持ちで接しています。するとどんなに小さなお子さんでも、きちんと納得して検査や処置に向き合ってくれるんです。また、症状以外のことも気をつけてみるようにしています。実生活では、育児中であり、時短勤務などの配慮をいただきながら、復職しています。医師になって11年目。ドクターとしてまだまだ勉強中の毎日です。さらに専門性を身につけ「一人前の医師」を目指していきたいと思っています。

熊本大学医学部附属病院小児科 医員

Profile
かしき ともこ / 宮崎県出身。H18年秋田大学医学部卒業。市立秋田総合病院で2年間の初期臨床研修修了後、H20年4月熊本大学医学部附属病院小児科入局。平成27年10月より現職。



PR POINT

ライフワークバランス
子どもと一緒にいる仕事は一生楽しいに違いない

小児科医は子どもと一生付き合う仕事なので充実度は高いのですが、仕事以外の趣味を見つけている医師も多いです。フルマラソン、ハンドボール、ピアノやクラリネットなど、活躍を目にする機会も少なくありません。妊娠中や子育て中の女性医師の仕事にも配慮しながらキャリアアップを目指しています。仕事そのものが楽しく、これだからやめられないという声も聞こえてきます。



吉松 秀隆

[専門分野]
新生児学



新生児たちの力強い生命力。そのサポートをするのが医師の役目。

どの医局に入局するか。選択の際は正直いって食事が喉を通らないほど悩みました。小児科を選んだ最後の一押しになったのが、医局での働き方の多様性でした。同じ小児科医といってもNICUで働く先生がいれば、血液を専門にする先生もいます。つまり「小児科」というベースがあったうえで、専門が分かれていきます。他の科では臓器別の専門になることが多いのですが、小児科では幅広い働き方ができ、また専門性を身に

付けることができるところに魅力を感じました。また「手技」が好きだったことも小児科を選んだ理由の一つです。小児科では身に付けることができる手技がたくさんあります。頭で考えることももちろん大事なのですが、手技がうまくいかない治療が始まらないこともあります。僕自身研修医時代、細い血管を確保したり、気道確保の手技に四苦八苦しました。しかし経験を積むにつれ徐々に上達することがで

きました。上級医の先生から「センスあるね!」と褒められた時の喜びは今でも心に残っています。現在は新生児を専門にしており、早産児の方を多く診ておりますが、「病気を治す」というよりも「育てる」というイメージが近いですね。彼らは自分たちの力で成長していくんです。僕たちはそのサポートをしているという感じ。子どもたちの生命力やパワーを感じ取ることができるのも、この仕事の魅力の一つだと思っています。

熊本大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター 医員

Profile
よしまつ ひでたか / 佐賀県出身。H22年熊本大学医学部卒業。H24年熊本大学医学部附属病院小児科入局。H27年4月より熊本大学附属病院新生児センター勤務。



PR POINT

新生児集中治療室
最先端の新生児医療を目指し、実行しています!

現在、NICUは12床、GCUは12床で治療が必要な赤ちゃんの診療を行っています。平成27年には202名の新生児を収容。特に先天代謝異常症、重症新生児仮死、超低出生体重児、大学病院での治療を要する外科系疾患、先天奇形などの小児を受け入れています。最先端の新生児医療を提供するとともに、5年後、10年後を目指したより良い治療法の開発研究に力を入れています。

[専門分野]
小児科
新生児

森
博子



「肝っ玉かあちゃんドクター」を
目指して奮闘中です！



姉が幼少の頃とても病弱だったため、両親がつきっきりで看病する姿を見て育ちました。そんな家族の姿を見て「自分にもなにか出来ることはないか」と医学を目指すようになりました。また母が保育士だったので、子どもに携わる仕事の魅力をよく話してくれていたこともあり、自然と小児科の道を選びました。

実生活では、3歳と4ヶ月の二児の母親。現在は、産休・育休をとりつつ仕事と育児の両立を目指しています。

熊本大学医学部附属病院には院内保育園があるので、休憩時間に授乳に行けるなど、育児中のドクターには心強い施設やサポート体勢が整っているのが助かっています。

女医はどうしてもライフスタイルの変化で「仕事を続けるか、辞めるか」という生き方・働き方の選択に迷いが生じてしまいがち。しかし当病院の小児科医局では、職場と自分の状況・希望の折り合う地点を周囲とともに話し合いながら、仕事と家庭・育児の

両立ができるようにいるんな方がサポートしてくれます。実際に、育児に専念する時期があることで、小児科医としてのアドバンスになるようにも感じています。

これからも、通院・入院している子どもたち、またその保護者の気持ちに寄り添える医師、ちょっとしたことで気軽に相談してもらえるような「肝っ玉かあちゃんドクター」を目指して、仕事に子育てに奮闘したいと思っています。

熊本大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター 特任助教

Profile
もり ひろこ / H14年熊本大学医学部卒業。熊本大学医学部小児科、市中病院、地方基幹病院での勤務を経て、H20年より熊本大学大学院医学教育部で新生児低酸素性虚血性脳症の研究に従事。同年、熊本大学医学部附属病院NICUに勤務。H28年4月より現職。



院内でのクリスマスイベント

PR POINT

小児科救急医療・地域医療

熊本が全国に誇る、
小児科救急医療体制

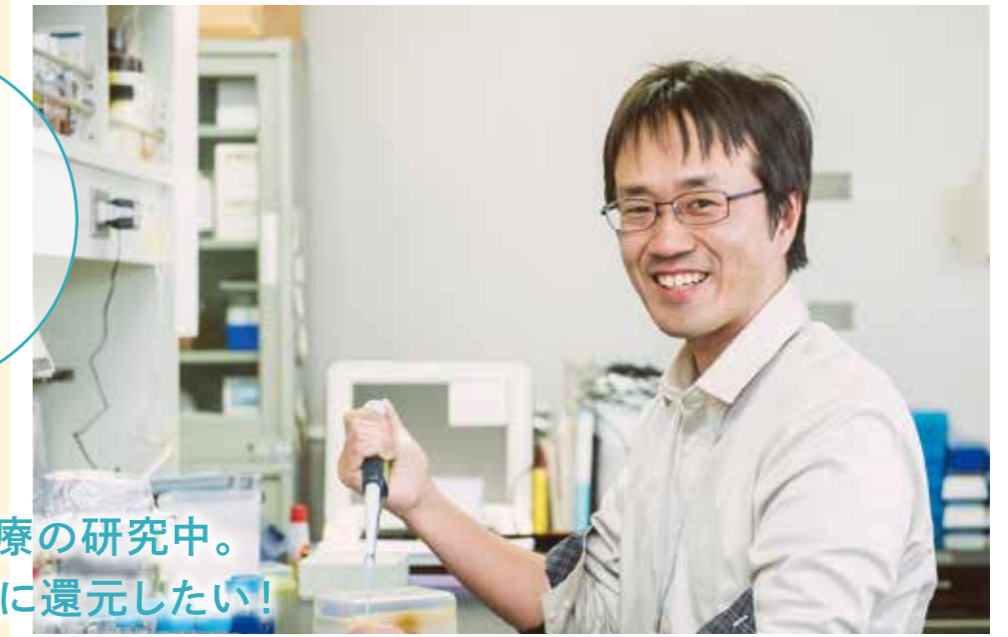
「熊本方式」という小児の時間外救急医療体制があります。大学・関連病院・開業医が連携して行う小児の時間外救急医療体制のことですが、このような体制は全国でも珍しいため、マスコミなどでも度々紹介されています。また、平成15年からは天草地区での小児の時間外医療のお手伝いも、関連病院と開業の先生と協力してスタートさせています。

[専門分野]
小児科
血液・腫瘍

興
柁健作



白血病やがん治療の研究中。
成果を医療現場に還元したい！



父が呼吸器科、母が小児科の医師。そんな両親の背中を見て育ったことは、自分の進路を決めるうえで大きな影響がありました。

小児科では、生まれつきの病気や診断・治療が困難な病気に遭遇する場面が数多く存在します。お子さんやご家族の不安な気持ちを医療面でも精神面でも軽減させることが重要ですが、どちらも容易なことではありません。しかし、自分の診断に基づいて治療を行い、子どもたちが元気に

なる姿を見ることはなにもものにも代え難い喜びとなります。子どもたちからプレゼントされる手紙や工作物は私の宝ものであり、また仕事を続けるうえでの励みともなっています。

医師である以上誰もが体験することですが、病気で命を落とす患者さんを看取る時があります。私も当時勤務していた病院で、白血病の再発を繰り返した。医療は確実に進歩していますが、それでも助からない患者さんが多く存

在するの事実。私はその時の無念さを契機に、小児の白血病やがん治療に関わる仕事をしたいと思い、その後大学院に進学し、現在は白血病の新たな治療を探る研究をしています。

大学院で研究の成果を出し、助からなかった患者さんの病気に少しでも貢献できればと邁進しているところです。将来的には現在進めている研究の結果を、医療現場で還元できる医師になりたいと思っています。

熊本大学大学院生命科学研究部小児科学分野 大学院生

Profile
こうろぎ けんさく / H19年熊本大学医学部卒業。熊本大学附属病院、人吉総合病院にて初期臨床研修を行い、H21年熊本大学附属病院小児科入局。県立延岡病院小児科、熊本市民病院新生児科、国立都城病院小児科、熊本赤十字病院小児科勤務を経て、H26年4月より現職。研究テーマは白血病細胞におけるヒストン脱メチル化酵素LSD1による遺伝子制御機構の解明。



子どもたちからのプレゼント

PR POINT

世界的な臨床・基礎研究

小児難病を対象とした研究に
臨床と基礎の両面から挑戦

国際共同臨床研究(ドイツ・米国・オランダ等)、国際共同治験、国内臨床研究等とともに、基礎研究にも注力しています。厚生労働省研究班(中村班など)では、新生児スクリーニングによって難病の診断を可能とするなど基礎と臨床のリエゾン領域にも挑戦しています。国際的な人材の育成も重視しており、多くの先輩医師が海外留学を経験し、国際的に活躍しています。

熊本大学 小児科より メッセージ

「熊本地震」を経験して

2016年4月14日と16日に、私たちは最大震度7の地震を経験しました。連携施設のひとつである熊本市民病院は病棟閉鎖となり、熊本の小児医療はかつてない危機を迎えたのです。しかし、これまで培ってきた協力体制と信頼関係が基礎となって、小児医療はいち早く立て直しが進みました。16日の本震後ただちに関連病院のメーリングリストが立ち上がり、それぞれの状況や不足物資、空床数などを共有しました。また、患者さんの搬送や医師の派遣をおこない、開業医も参加して特定の病院に負担が集中しないように調整もできました。震災後の研修も不安を感じる必要はありません。「雨降って地固まる」のとおり、より強固な連携のもとで十分な研修が行えると確信しています。



熊本大学大学院生命科学研究部
小児科学分野 准教授 中村公俊

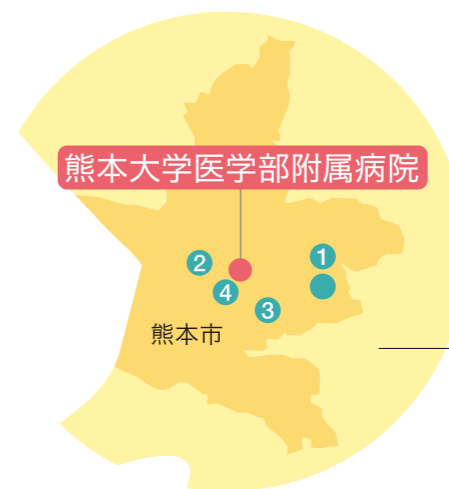
熊本大学小児科専門研修プログラムの特徴

熊本の小児医療には特徴が3つあります。1つ目は**連携施設や関連施設の役割分担**です。小児科の様々な分野を幅広くカバーするため、それぞれの施設が得意な専門領域を持ち、施設間で患者を紹介しながら診療を行っています。そのため研修施設には必ず特色があります。専門研修プログラムではこれらの施設をローテーションすることで小児科専門医が経験すべき疾患のほぼすべてを研修することができます。2つ目は**開業医との連携**です。小児夜間救急医療では熊本方式として全国的に知られている開業医参加型の救急診療を行っています。それによって多くの

基幹施設、連携施設では2~3次医療に集中することができ、また、市内の数か所の拠点病院では指導医のもとで夜間救急を経験することもできます。3つ目は**多彩で実証的な教育プログラム**です。熊本地震では、いち早く子どものこころの診療についての勉強会を開催しました。また普段から神経、内分泌、血液、腎臓など多くの専門領域の勉強会が開催されていて、専攻医はどの勉強会にも自由に参加できます。さらに、New England Journal of Medicineの症例レポートの抄読会や、研究志向の抄読会などにも多くの専攻医が参加しています。

研修先となる 連携施設 関連施設

熊本大学医学部附属病院



様々な特徴をもった
病院と連携しています！
小児科医として多くの
経験があなた自身の
財産となります。

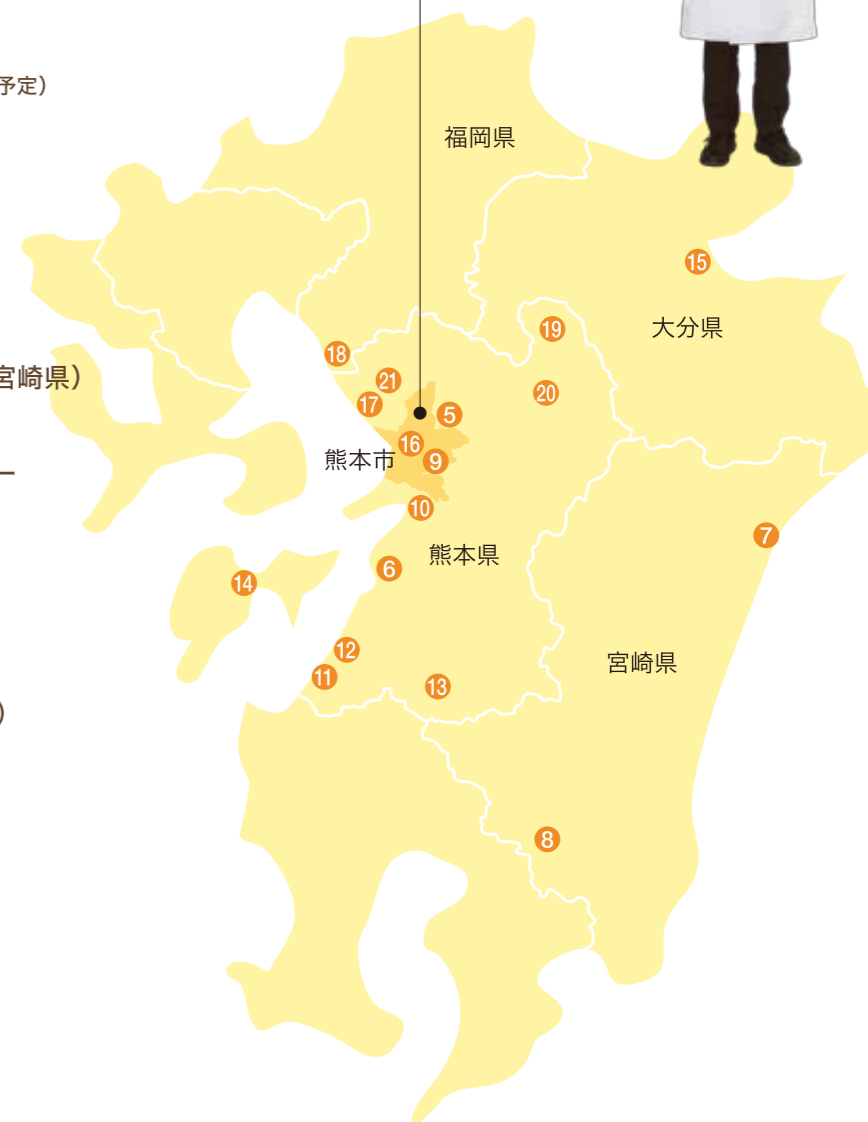


連携施設

- 1 熊本赤十字病院
- 2 国立病院機構熊本医療センター
- 3 熊本中央病院
- 4 熊本地域医療センター
- 5 熊本市民病院
※熊本市区へ移転新築(2018年度完成予定)

関連施設

- 5 国立病院機構再春荘病院
- 6 熊本労災病院
- 7 宮崎県立延岡病院(宮崎県)
- 8 国立病院機構都城医療センター(宮崎県)
- 9 くまもと江津湖療育医療センター
- 10 熊本県子ども総合療育医療センター
- 11 水俣総合医療センター
- 12 くまもと芦北療育医療センター
- 13 人吉医療センター
- 14 天草地域医療センター
- 15 国立病院機構西別府病院(大分県)
- 16 福田病院
- 17 公立玉名中央病院
- 18 大牟田天領病院(福岡県)
- 19 小国公立病院
- 20 阿蘇医療センター
- 21 和水町立病院



小児科救急の拠点病院として365日 24時間対応可能な医療体制！



小児科部長
右田昌宏

連携施設 ① 熊本赤十字病院

熊本赤十字病院の小児医療の根幹は**小児救急医療**です。総合救命救急センターと小児集中治療室(PICU)を併設した**こども医療センター(一般病床48床、PICU 8床)**をもち、診療をおこなっています。年間**PICU入室患者約250人、小児科入院患者数約2,500人**、救急外来受診者数約22,000人の患者を受け入れ、多くのcommon disease(呼吸器感染症、消化器感染症、喘息、川崎病、尿路感染症など)を経験できます。

また、日本でも珍しく小児の外傷例にも、院内各科(救急科、小児外科、脳外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、麻酔科など)との連携があり、積極的な対応が可能となっており、南九州地区の様々な疾患をカバーできるよう日々努力を続けています。

さらに、血液疾患、循環器疾患、内分泌疾患、腎疾患を始めとする各種専門疾患の管理や小児集中治療医の指導の下に小児重症患者の管理(呼吸管理、経皮的体外循環、血液透析や血漿交換など)も学ぶことができます。

子どもの血液疾患、アレルギー性疾患、 免疫不全症は得意分野です！



小児科部長
高木一孝

連携施設 ② 国立病院機構熊本医療センター

熊本城内に位置する**550床の総合病院**です。当科では一般小児科の他に以下の3領域において専門的な診療をおこなっています。

①**血液疾患**：白血病やリンパ腫などの悪性腫瘍、再生不良性貧血、溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などで、化学療法、免疫抑制療法、造血幹細胞移植(非血縁ドナーからの造血幹細胞移植も含む)、輸血療法などの治療をおこなっています。

②**アレルギー性疾患**：食物アレルギーに対して食物負荷試験を実施し、食事指導をおこなっています。病棟では厳重な管理のもと経口急速脱感作療法により短期集中的治療に取り組んでいます。また難治性の喘息に対して抗IgEモノクローナル抗体療法、アトピー性皮膚炎に対してはアレルギー認定看護師と一緒に治療・指導をおこなっています。

③**免疫不全症**：子どもの受診で最も多い訴えは発熱(感染症)です。日常診療のなかにひそむ稀な免疫異常症を見抜き、免疫・遺伝学的検査をおこない治療に結びつけています。

腎泌尿器疾患、内分泌疾患で定評有り。 最新画像診断機器での確、迅速に判断！



小児科部長
中村俊郎

連携施設 ③ 熊本中央病院

当病院は全病床数361床、診療科19の中規模病院です。**小児科医は常勤3名、レジデント2名で、ベッド数は25床**です。小児専門病棟認可を受けており、外科・眼科・泌尿器科・整形外科・形成外科など他科の小児患者も受け入れています。来院する患者は急性と慢性が半々、入院患者の8~9割が紹介患者です。時間外はオンコール体制で救急を含め紹介患者をいつでも受け入れるシステムにしています。

サブスペシャルとして力を入れているのは**腎泌尿器疾患と内分泌疾患**で、学会認定の専門医と指導医が診療にあたっています。月に2~5例の腎生検があり、病理組織報告は敏速です。週1~2例のVCGもおこなっていて、いずれも県内最多検査数と思われま。内分泌は低身長・甲状腺疾患・思春期異常の紹介が多く、特にGHDの数は最多(負荷試験は原則入院)です。糖尿病も発症期から診ており、CSII導入なども増えています。CTやMRIなど画像診断機器は最新型で、仕事のしやすい病院といえます。

三位一体の「熊本方式」で小児初期及び 2次救急医療体制を担います！



小児科部長
柳井雅明

連携施設 ④ 熊本地域医療センター

「熊本方式」と呼ばれる「**開業医**」、「**熊本大学病院小児科**」、「**熊本地域医療センター**」の医師が三位一体となっておこなっている医療体制は、当院小児科の最大の特徴です。病院併設型の小児初期および2次救急医療体制の中心的役割を担っています。この「熊本方式」には総勢約60名の地域の小児科医が参加して、年間約17,000件の休日、夜間の小児初期救急患者の診療を行っています。平成27年度からは、新たに熊本大学小児科関連の基幹病院の小児科勤務医の協力体制も整備され、今後も「熊本方式」による熊本市の休日夜間救急外来の維持を目指しています。本院小児科常勤医の5名は主に2次救急医療(入院診療)を担当しながら、初期救急外来にも参加しています。

通常診療では、小児科一般診療に加え、専門外来として小児アレルギー外来を開設。食物アレルギー相談および経口食物負荷試験、喘息、アトピー性皮膚炎などの小児アレルギー疾患の診療を広くおこなっています。

関連施設

⑤ 国立病院機構再春荘病院

小児神経・不登校・重心児・在宅医療の歴史と実績を有す。

⑥ 熊本労災病院

南部の小児医療の要。新生児から青年期まで対応。

⑦ 宮崎県立延岡病院

宮崎県北部の1次~2.5次の小児医療に対応。

⑧ 国立病院機構都城医療センター

宮崎県南西部と鹿児島の一部にかけ、小児・新生児医療を担う。

⑨ くまもと江津湖療育医療センター

熊本市内初めての重症心身障害者施設。在宅支援も行う。

⑩ 熊本県こども総合療育医療センター

医療型障がい児入所、医療型・福祉型児童発達支援を担う。

⑪ 水俣総合医療センター

水俣地域と鹿児島の一部に密着した総合医療センター。

⑫ くまもと芦北療育医療センター

約200人の重症心身障がい者のQOL向上に寄与。

⑬ 人吉医療センター

人吉・球磨・えびの・大口地域の小児医療を担う。

⑭ 天草地域医療センター

天草医療圏の中核。急性期から慢性期まで地域医療を担う。

⑮ 国立病院機構西別府病院

⑯ 福田病院

わが国最大の出産数を誇る。NICUと小児医療を担当。

⑰ 公立玉名中央病院

玉名地域の小児救急から一般外来まで幅広く対応。

⑱ 大牟田天領病院

⑲ 小国公立病院

⑳ 阿蘇医療センター

㉑ 和水町立病院

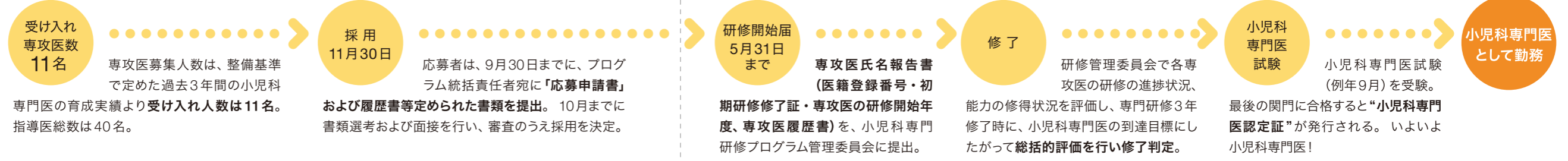
Q. 研修中はどのように病院をまわるのですか？

A. 3~5施設で研修を行っています。(例参照)

	1年目	2年目	3年目
A 先生	熊本大学医学部附属病院	熊本赤十字病院	天草地域医療センター
B 先生	熊本市民病院	宮崎県立延岡病院	熊本大学医学部附属病院
C 先生	熊本大学医学部附属病院 熊本市民病院	都城医療センター	熊本赤十字病院
D 先生	熊本大学医学部附属病院	熊本労災病院	熊本医療センター 熊本市民病院
E 先生	熊本中央病院 再春荘病院	福田病院	人吉医療センター 熊本大学医学部附属病院
F 先生	熊本地域医療センター	熊本大学医学部附属病院	熊本赤十字病院 熊本労災病院

熊本大学 小児科 専門研修 プログラム

専攻医の採用と修了 “小児科専門医への道”を確認しておこう！



年間スケジュール

One year	1年次	2年次	3年次	修了者	その他
4月 Apr.	研修開始ガイダンス(研修医および指導医に各種資料を配布) 日本小児科学会学術集会	研修手帳を研修管理委員会に提出し、チェックを受ける		研修手帳・症例レポート等を研修管理委員会に提出し判定を受ける	〈研修管理委員会〉 ●研修修了予定者の修了判定を行う ●2年次、3年次専攻医の研修の進捗状況の把握 ●次年度の研修プログラム、採用計画などの策定
5月 May	熊本大学小児科研修プログラム合同勉強会・歓迎会・修了式			専門医認定審査書類を準備する	
6月 Jun.	熊本小児科学会			専門医認定審査書類を専門医機構へ提出	
8月 Aug.	熊本大学小児科研修プログラム合同勉強会 小児科専門医取得のためのインテンシブコース				
9月 Sep.	臨床能力評価(Mini-CEX)を1回受ける 研修手帳の記載、指導医とのふりかえり 熊本小児科症例検討会・熊本小児先進医療研究会			小児科専門医試験	専門医更新、指導医認定・更新書類の提出
10月 Oct.	熊本小児科学会				〈研修管理委員会〉 ●研修の進捗状況の確認 ●次年度採用予定者の書類審査、面接 ●次年度採用者の決定
12月 Dec.	熊本大学小児科研修プログラム合同勉強会・納会				
2月 Feb.	熊本小児科学会 熊本小児科症例検討会・熊本小児先進医療研究会				
3月 Mar.	臨床能力評価(Mini-CEX)を1回受ける 360度評価を1回受ける 研修手帳の記載、指導医とのふりかえり、研修プログラム評価				専門医更新、指導医認定・更新書類の提出

小児科医になるための
様々な研修・実習
プログラムです。
日々考え、悩みながら
努力あるのみ！



小児科専門医認定証



週間スケジュール

イエロー部分は特に教育的な内容です。詳細については「熊本大学小児科専門研修プログラム」冊子を参照してください。

One week	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
月 mon		外来陪席・処置				病棟	総回診		病棟(学生・初期研修医指導)	重心カンファ		
火 tue		病棟	NICUカンファ	病棟		病棟	臨床カンファ			神経カンファ		
水 wed	抄読会	病棟	NICUカンファ	病棟		腎臓カンファ	病棟		(学生・初期研修医指導)	総合カンファ		当直1回/週
木 thu		病棟	NICUカンファ	病棟		病棟	NICU回診		病棟	周産期カンファ	神経カンファ	
金 fri		外来処置				病棟	血液・腫瘍カンファ	病棟		ふりかえり(1/月)	移植カンファ	
土・日 sat/sun						週末の当直(1回/月)						



「平成28年 熊本地震」により
ご支援頂いた多くの医療関係者の皆様へ
心よりお礼を申し上げます。
未来ある子どもたちのために…
私たちは、いかなる時も努力を惜しまず
日々進化しつづけます。



上) 長期の入院生活を少しでも楽しく過ごしてもらおうと病棟内には保育士常駐のプレイルームがあります。体調が良い子どもたちはじっとしていません。元気な声が響きます。

右) 熊本大学小児科医局には多くの医師が在籍しています。それぞれの専門を活かし、皆さんも頑張る子どもたちと一緒に闘ってみませんか？



熊本大学小児科専門研修プログラム《別冊》

発行：熊本大学医学部附属病院 小児科医局
〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
TEL:096-373-5191 FAX:096-366-3471

<http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp>

e-mail:pediat@kumamoto-u.ac.jp **応募は随時受付ます**

興味がある方は
気軽にメールで！

編集・デザイン：中川哲子デザイン室